

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q-1 室内環境			0.40			2.7
1 音環境						
1.1 騒音						
1 騒音レベル						
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能						
2 界壁遮音性能						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音						
2 温熱環境		2.4	0.57			2.4
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温設定		3.0	0.30			
3 外皮性能		3.0	0.20			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.50			
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30			
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率						
2 方位別開口						
3 昼光利用設備						
3.2 グレア対策						
2 グレア制御						
3.3 照度						
1 照度						
3.4 照明制御						
4 空気質環境		3.2	0.43			3.2
4.1 発生源対策	建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に使用。	4.0	0.50			
1 化学汚染物質		4.0	1.00			
4.2 換気		2.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.50			
2 自然換気性能		1.0	0.50			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.20			
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視						
2 喫煙の制御		3.0	1.00			
Q-2 サービス性能			0.30			3.3
1 機能性		3.4	0.40			3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60			
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00			
3 バリアフリー計画		4.0	0.40			
1.2 心理性・快適性						
1 広さ感・景観		4.0	1.00			
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画	照明の特注器具による演出、エントランス付近の床に大理石を採用。					
2 耐用性・信頼性		2.8	0.31			2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.48			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.4	0.33			
1 外装仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.29			
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.12			
3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.29			
4 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.29			
2.4 信頼性		3.2	0.19			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備	非常発電機設備がある。浸水の危険性なし。	4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.8	0.29		-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31		-	
1 階高のゆとり			-	-		-	
2 空間の形状・自由さ		身長比率 0.17	4.0	1.00		-	
3.2 荷重のゆとり		OLデッキ、許容積荷重 9800N/m ² 以下。	5.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			2.7	0.38		-	
1 空調配管の更新性		構造部材を痛めることなく修繕、更新できる。	3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性			4.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.22		-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q-3 室外環境(敷地内)				0.30			3.2
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑地による良好な景観を形成している。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		十分な芝生や空き地などを設けている。	4.0	0.50		-	
Q-4 建築物の省エネルギー性能							3.2
LR-1 エネルギー				0.40			3.1
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		高効率の空調設備を採用	3.5	0.30		-	3.5
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
LR-2 資源・マテリアル				0.30			3.6
1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム			3.0	0.67		-	
2 雑排水利用システム			3.0	0.33		-	
2 低環境負荷材			3.8	0.85		-	3.8
2.1 資源の再利用効率			3.6	0.35		-	
1 躯体材料の再利用効率		再生建築資材の使用に努める。	3.0	0.67		-	
2 非構造材料の再利用効率			5.0	0.33		-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.04		-	
2.3 有害物質を含まない材料		有害物質を含まない材料の使用に努める。	5.0	0.08		-	
2.4 既存建築躯体などの再利用			3.0	0.18		-	
2.5 部材の再利用可能性		鉄骨造で天井・壁の下地にLGSを使用している。	5.0	0.18		-	
2.6 フロン・ハロンの回収			3.3	0.18		-	
1 消火剤		ハロン消火剤を使用していない。	4.0	0.33		-	
2 断熱材			3.0	0.33		-	
3 冷媒			3.0	0.33		-	
LR-3 敷地外環境				0.30			2.8
1 大気汚染防止		低汚染舗装を使用していない。	5.0	0.15		-	5.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15		-	3.0
2.1 騒音			3.0	1.00		-	
2.2 振動			-	-		-	
2.3 悪臭			-	-		-	
3 風害、日照障害の抑制			3.0	0.15		-	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
4 光害の抑制		チェックリストを満たしており、夜間照明の影響もない。	4.0	0.10		-	4.0
5 温熱環境悪化の改善			1.0	0.30		-	1.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.15		-	3.3
6.1 雨水処理負荷抑制			-	-		-	
6.2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
6.3 交通負荷抑制		駐車場、駐輪場のスペースが確保されており、車寄せもある。	4.0	0.33		-	
6.4 廃棄物処理負荷			3.0	0.33		-	

LR-1 用途別得点表		敷会所	-	-	-	面積按分
		2344 m ²	-	-	-	総合スコア
1	建物の熱負荷抑制	3.0	-	-	-	3.0
3	設備システムの ERRIによる評価	-	-	-	-	3.5
	高効率化 (個別設備による評価)	3.5	-	-	-	
3.1	空調設備	4.0	-	-	-	-
3.2	換気設備	3.0	-	-	-	-
3.3	照明設備	3.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	-	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	-	-	-	-	-